



光が丘地区では、療育センター陽光園、陽光台保育園など子どもに関する地区内の公共施設の多くが築40年以上を経過しており、建て替えを検討する時期となっています。その中で今後閉校予定の青葉小学校の学校跡施設を「避難所としても使える、子どもや地域の活動の場」を基本とした利活用を検討することを目的に、昨年度の市民対話ワークショップを踏まえて、全4回の市民検討会を行っています。

### 市における公共施設の検討状況

#### 市民活動機能、陽光園、保育園の配置検討

▶ 2つの検討パターンを設定し、メリットとデメリットを検討中

検討パターン

①

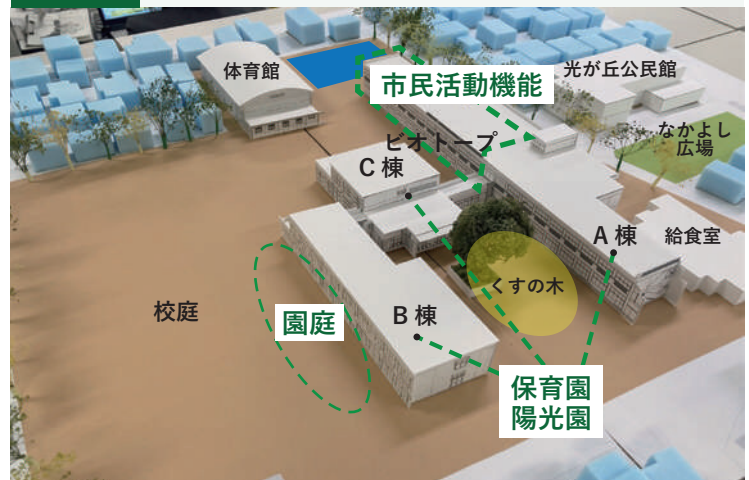
A棟：陽光園・保育園  
B棟：市民活動機能  
C棟：陽光園



検討パターン

②

A棟：陽光園・市民活動機能  
B棟：陽光園・保育園  
C棟：陽光園



### セキュリティ・ゾーニング

- 各機能を棟単位でまとめて配置可能
- 各機能の運営体制に合わせた施設管理が可能であり、セキュリティも明確に分割可能
- 陽光園と保育園への給食提供動線が明確であり、衛生面での管理が容易

- ▲ 陽光園の機能が分散し、施設管理とセキュリティ面で課題あり
- ▲ 保育園への給食提供動線が他機能と重なり、衛生面での管理が困難

### 一体性・つながり

- 陽光園と保育園が一棟にまとまり、運営面の連携が容易
- C棟を陽光園・保育園と市民活動のつながりの場に行ける
- 保育園と砂場、ビオトープが隣接
- 市民活動と校庭の一体的利用
- ▲ 市民活動と公民館の距離が遠い
- 校庭と園庭のすみ分けが可能

- ▲ 陽光園と保育園が分散し、運営面での連携が困難
- ▲ 陽光園・保育園と市民活動のつながりの場になるところがない
- 保育園と広い校庭が隣接
- 市民活動と公民館の距離が近く一体的利用が容易
- ▲ 校庭と園庭のすみ分けが困難

○ メリット ▲ デメリット

▶ 市民検討会の意見等や市における技術的な検証を踏まえ、パターンを決定していきます。

# 1月14日に第3回市民検討会を開催しました！

第3回市民検討会は「テーマごとに考えて成果をまとめよう！」をテーマに行いました。

## ワークの内容

### ワーク1：担当テーマを考えよう

テーマごとに、第2回検討会とこどもワークショップの意見カードを、ハードとソフト、アイデアと課題の4種類に分類しました。追加のアイデアや実現に向けて配慮すべきことを考えました。

〇〇チーム	具体的なアイデア	課題・配慮
ハード面 施設整備など		
ソフト面 運営・イベントなど		

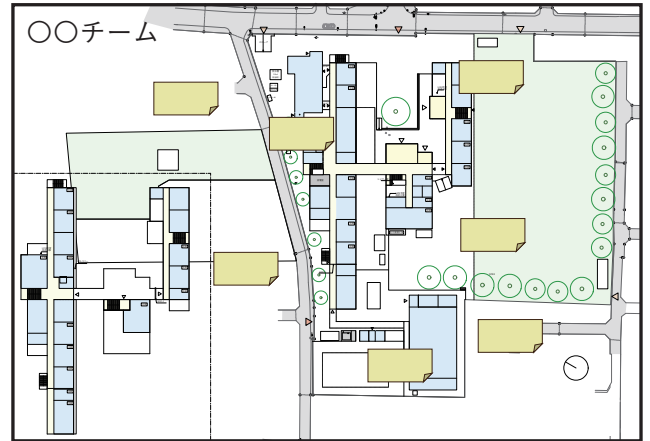
第2回検討会  
意見カード

こども  
ワークショップ  
意見カード

追加意見  
付せん

### ワーク2：担当テーマとの関連

担当テーマに関連したアイデアや配慮すべきことを付せんに書き出して地図に貼りました。



### ワークまとめ

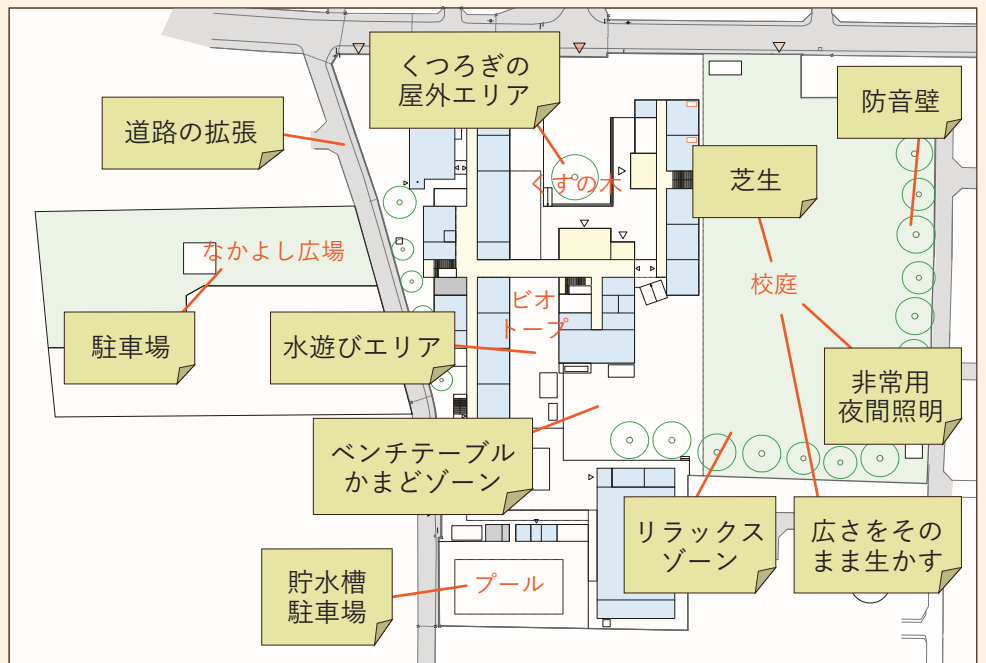
学生作成のラフスケッチをもとに、伝えたい場面のイメージや大切にしたいエッセンスなどを共有しました。

## 第2回目ワークの結果

### 校庭チーム

校庭・くすの木周辺・  
ビオトープ

性格の異なる屋外エリアで  
全員が楽しめるようにする！



かまどベンチ、というキーワードについては、昨年度の議論にあった“防災”というテーマを受け継ぎつつ、こどもワークショップで出た意見をも拾って上手に生かしてくださったと思います。また、他のチームでも議論があった校庭の芝生化というアイデアから、単なる既存施設の活用を超えた、新たな風景づくりにしたい、という皆さんの共通の想いが想像できました。

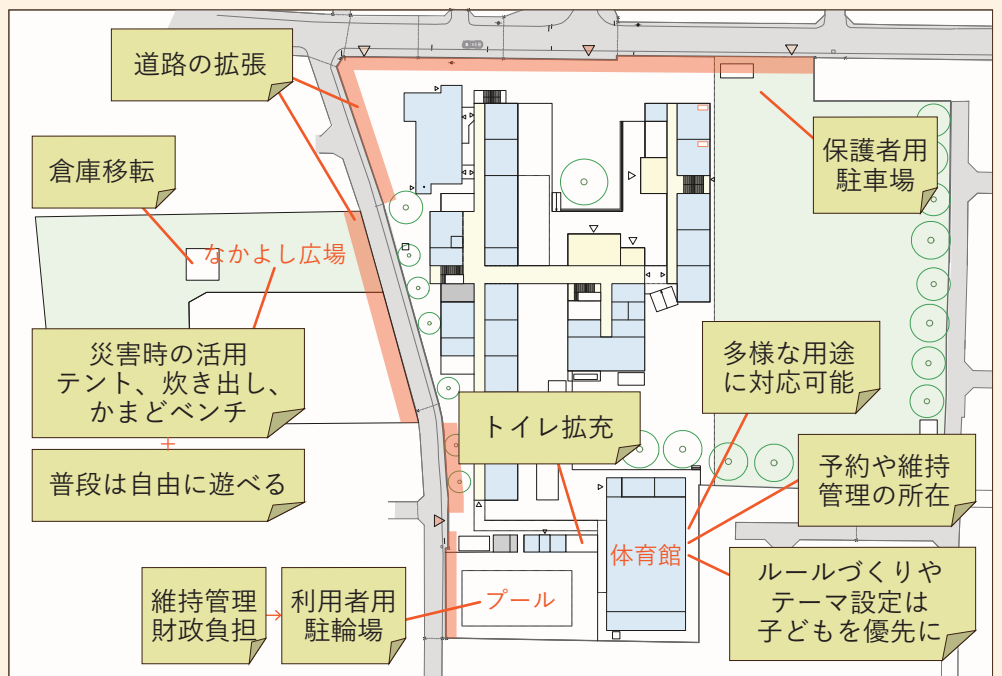


讃岐先生

## 体育館チーム

体育館・プール・  
なかよし広場

広く、可変性のある場で  
子どもの活動を支えていく！



前回の検討会の議論に引き続き、体育館という空間の特性を踏まえたアイデアや工夫がたくさんありました。また、こどもワークショップの意見について、大きな空間であれば実現できそうといった前向きな意見もありました。チーム内では運営についての議論があったのも特徴です。そして、それは必ずしも体育館の運営だけに留まらない、という議論がありました。これはまさに、今後の課題ですね。



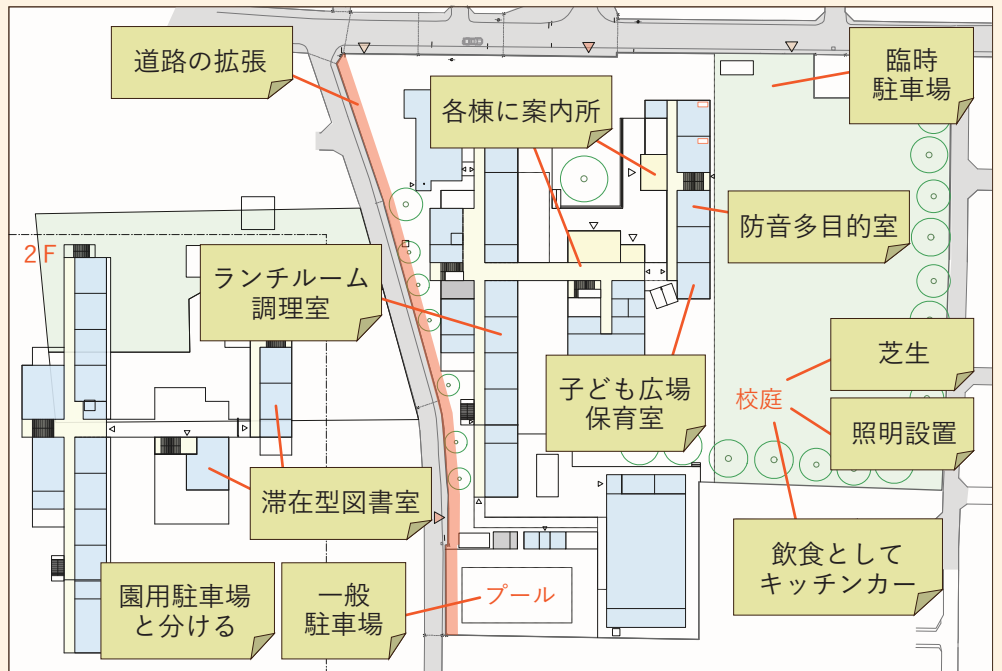
讃岐先生

## 諸室チーム

(くすのきチーム)

市民活動で使用する諸室

光が丘が選ばれるように、  
若い世代のニーズに応える！



一つ一つのアイデアの背景にその理由があることや、テーマを設けてチームの議論を始めたことなど、このチームの特徴が議論の形そのものに現れていました。子どもたちの要望をできる限り実現するために設備を完備する、という意見がありましたが、一方で足りないものがある空間でこそ、子どもたちの想像力が発揮されるという考え方もあるかもしれません。議論の深堀りで更に魅力的になりそうなテーマが浮かび上がりました。



讃岐先生



## 讃岐先生



東京都立大学建築学科で助教を務める。専門は都市計画。多数の自治体で公共施設再編アドバイザーや市民ワークショップの講師を担う。

今回の総括のポイントは3つです。1つは、それぞれのチームに共通するアイデア・課題への意見が発見できたこと。これをきちんと整理できれば、次の議論がよりスムーズに開始できると思いました。

2つ目は、運営の議論のこと。整備よりも完成したあとの時間の方が圧倒的に長いことを考えると、やはり運営を見据えた計画づくりを意識するべきでしょう。

3つ目は、こどもワークショップで私が驚いたポイントの解説。ストレス発散とか、寝っ転がりしたい、といった子どもたちならではの生きた意見があったことでした。賑やかな場づくりを目指すのか、静かな場もつくるべきなのか、今一度考える必要があることを教えてくださいましたね。このことも改めて意識しながら、議論を最終回に昇華させられると良いな、と思いました。

## 次回予告

2月19日(日) 14:00～

会場：光が丘公民館

「市民検討会の成果をまとめよう！」

テーマごとの成果を共有して磨きをかける

～これまでの取組について～  
相模原市ホームページ>トップページ>中央区>光が丘地区の公共施設再編に向けた取り組み

